



小曽根真 ©Yow Kobayashi Yamaha

FOCUS

10.18 日 小曽根真 プレミアム・ジャズ・ライブ

What a wonderful OZONE world ! 一瞬にして心奪われる、音楽の魔法に満ちたひととき

文 高瀬真樹

日本が世界に誇るジャズ・ピアニスト、小曽根真が、コンサートホール ATM で待望のソロ公演を行います！昨年は ACM 劇場の「橋爪功 ちょっとリゾットする話 “零人” “鍵”」で、朗読と刺激的なコラボレーションを披露。現代美術ギャラリーで開催された「ジョン・ヨンドウ 地上の道のように」展では、水戸芸術館の近くのスペース（屋外）でイメージネーションをかきたてる美しい即興を披露し、その模様がヨンドウ氏の新作映像に収められました。そして今回のライブ。「待ちました！」と思われた方も、きっと多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

「ジャンル」を越えた音楽の架け橋

あらためて小曽根真さんをご紹介します。1961 年神戸に生まれ、音楽家の家庭に生まれ育ちました。5 歳でピアノを始め、その「バイエル」が好きになれず (!)、小さい頃はオルガンでジャズを弾いていたそうです。ピアノとの本格的な出会いは 12 歳のとき。鍵盤の帝王とも呼ばれるジャズの巨匠、オスカー・ピーターソン (1925 ~ 2007) のコンサートで衝撃を受け、開眼。そこから彼のピアノ人生が始まりました。

その後 18 歳でボストンのバークリー音楽大学に留学し、1983 年にジャズ作曲・編曲科を首席で卒業。同年カーネギーホールにてリサイタルを開き、米国最大の TV・ラジオ・ネットワークを有する放送局 CBS のレーベルと日本人初の専属契約。ジャズの本場アメリカを拠点に世界デビューを果たしました。同時に、ジャズ・ヴィブラフォン界の巨星であり、これまでにグラミー賞を 6 回受賞しているゲイリー・バートン (1943 ~) に才能を見出され、彼のグループに参加。そうして現在に至るまで、世界の舞台を飛び回る活躍が続いています。

さらに小曽根さんは、「ジャンル」という枠組みにとらわれない幅広い音楽性を兼ね備えています。近年ではニューヨーク・フィルハーモニックをはじめ国内外のオーケストラと、ガーシュウィン、バーンスタイン、ショスタコーヴィチ、ラフマニノフなどの協奏曲で共演。今年 8 月には、モーツァルトのピアノ協奏曲第 9 番〈ジュノム〉の CD もリリース予定です。最近ではソロ公演でも、スクリャービンやラフマニノフの前奏曲に自身のジャズの曲想を加え、クラシックとジャズを融合させた独自の音楽を披露するといったステージを繰り広げています。またエリック宮城氏ら日本屈指の

凄腕プレーヤーたちと立ち上げたビッグバンド「No Name Horses」では、パワフルで創造性豊かな音作りが世界各地のファンを魅了しています。2013 年には文部科学大臣賞を受賞。まさに日本が世界に誇るスーパー・ピアニスト！それが小曽根さんです。

“OZONE” world とは？

ホールに登場した瞬間、パツと太陽のようなオーラが放たれ、ライブでのトークからも親しみやすく明るい性格が伝わってくる小曽根さん。音楽は、演奏者の人柄を映し出すものですが、小曽根さんの音楽はまず、気さくな明るさや快活さに満ちていることが大きな魅力です。そこには、ジャズが大好きな人も、あまりなじみがない人も、聴いている誰もが自然と身体を揺らしたくなる飛びぬけたスウィング感があるのです！またジャズという音楽はその中心が即興演奏。その点で小曽根さんは、聴く者を驚かせる匠のテクニックと変幻自在の創造性があるゆえ、いとも軽やかでしなやかに、インスピレーション豊かな曲想を次々と繰り広げることができ、またピアノ一台から時にオーケストラのように多彩な音楽も生み出せるのです。さらには、まるで

ピアノが喜んでるようにすら感じさせる、気品のある美しい音色。それは一流の音楽家として、ピアノの声と真摯に向き合う妥協なき姿勢があるからこそ生み出せるものです。

陽気にスウィングしたくなる音楽でも、繊細な音の表現が味わえる音楽でも、純粋に「音楽の冒険を一緒に楽しみたい」という気持ちにさせてくれる小曽根さんのスペシャルな一夜。コンサートホールATMでの縦横無尽なプレイに、一瞬も耳が離せないことは間違いありません！この日この空間でしか見ることでできない音のエネルギーや物語を、思いっきりお楽しみください！

小曽根真
プレミアム・ジャズ・ライブ
10/18 日 16:30 開場
17:00 開演
会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 A席 4,000円 B席 3,000円
ユース(25才以下) 1,500円

担当者セレクト！小曽根真のアルバム5選



《WIZARD OF OZONE ~小曽根真ベスト・セレクション》
UCCV-2003 (2000年)

デビュー16年目にリリースされた本人選曲によるベスト・アルバム。卓越したテクニックとスウィング感、〈ウィー・アー・オール・アローン〉などで聴かせるソロの煌めき…その華麗な音楽世界が凝縮した1枚。



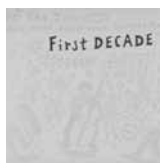
《MAKOTO OZONE GARY BURTON TIME THREAD》
POCG-10289 (2013年)

ジャズ・ヴィブラフォン界の頂点に立つゲイリー・パートンとのアルバム第3弾。30年共演を重ねている、ハイレベルな演奏家同士でしかない、エキサイティングなデュオの冒険。夢みるように美しいヴィブラフォンとピアノの自由闊達なやりとりは必聴！



《Jungle 小曽根真 フィーチャリング No Name Horses》
UCCJ-2075 (2009年)

「誰にも支配されず、自由奔放に駆け回る野生の馬」をイメージして名づけられた、小曽根真率いるビッグ・バンド No Name Horses。日本の凄腕たちが贈る、最高にハッピーなラテンジャズのオンパレード！



《10th Anniversary Best Album ~ファースト・ディケイド 小曽根真 THE TRIO》
UCCJ-2051 (2006年)

素晴らしい創造性と結束力を誇る、J. ジーナス、C. ペンとのトリオ10周年を記念したアルバム。「ジャズって難しそう」と感じる方、トラック8をぜひ。ドラえもののうたが粋で天真爛漫なジャズに变身！



《小曽根真 Ballads》
UCCJ-2074 (2008年)

ソロ、デュエット、トリオなどで綴られる、小曽根真の珠玉のバラード集。しなやかなタッチから生み出される繊細な濃淡、静謐なメロディのなんという美しさ…ロマンティズムの結晶がここにある。

10.12 月・祝 茨城の名手・名歌手たち 第25回 (司会：池辺晋一郎) 8人の個性豊かな「名手」たちの演奏に乞うご期待

文 篠田大基

茨城ゆかりの優れた音楽家を紹介するオーディション企画「茨城の名手・名歌手たち」。4月に開催した第25回オーディションでは、8人が合格し、10月の演奏会への出演を決めました。演奏会に向けて、合格者の方々にはそれぞれの腕前を遺憾なく発揮できる曲目を、持ち時間に合わせて改めて考えていただいています。オーディション受験曲を再び披露する方もいれば、全く別の曲に挑戦する方もいます。今年は合格者8人中6人が鍵盤楽器部門でした。曲が重複しないかと心配しましたが、結果としては偶然にも、ロシア音楽が2人、ラテン地域の音楽が2人、ドイツ音楽が2人と、きれいに3グループに分かれました。

ロシア音楽を選んだのは、永田絵里子さんと小田倉知加さん。お二人とも、オーディションと演奏会とで同じ作曲家の作品を選んでいました。ロシア・ピアノ

の頂点に君臨する作曲家ラフマニノフです。オーディションから演奏会まで時間をかけて熟成された演奏には、豊潤なロマンティズムが香り立つことでしょう。

他方、オーディションのときと異なる国の作品を選んだのは、ラテン地域の音楽を選んだお二人。村田果穂さん(オーディション受験曲はポーランドの作曲家シマノフスキ)は、スペインの作曲家ファリャを、浜口夏生さん(受験曲はシューマン)は、アルゼンチンの巨匠ヒナステラの作品を取り上げます。また、澤田尚美さん(受験曲は三善晃)と廣瀬由香里さん(受験曲はドビュッシー)は、ドイツのピアノ音楽の核心とも言えるベートーヴェンやリストの難曲に挑みます。オーディションとはガラリと雰囲気を変えた演奏をお楽しみに。

弦楽器と邦楽器の合格者も、それぞれの個性が伝わる選曲をしています。ロン

ドン在住のヴァイオリニスト牛草春さんは、アイルランド民謡〈夏の名残のバラ(庭の千草)〉にもとづく超絶技巧曲を、取手市で箏を教える宇佐見明子さんは、邦楽の普及と発展に取り組んだ箏演奏家・沢井忠夫の作品を披露します。

8人の注目の「名手」たちの個性豊かな演奏を、ぜひ皆で応援しましょう！

茨城の名手・名歌手たち 第25回

10/12 月・祝 17:30 開場
18:00 開演

水戸芸術館コンサートホール ATM

全席自由 1,500円

司会 池辺晋一郎(オーディション審査委員長)

出演 宇佐見明子(箏)、村田果穂(ピアノ)、
永田絵里子(ピアノ)、澤田尚美(ピアノ)、
牛草春(ヴァイオリン)、小田倉知加(ピアノ)、
浜口夏生(ピアノ)、廣瀬由香里(ピアノ)
*出演順

10.3 日at 17:00 太田友香クラリネット・リサイタル〜ピアニスト・鬼沢真美を迎えて〜



初めてのリサイタルを水戸芸術館で開催することが出来て、心から嬉しく思います。

地元の常陸太田市で吹奏楽部に入りクラリネットと出会い、昭和音楽大学に入学。卒業と同時に東京佼成ウインドオーケストラに入団して、8年が経過しました。

昭和音大での同級生である鬼沢真美さんとは、学生時代にも学内のコンサートや幼稚園の訪問演奏などで共演しており、「いつか水戸の芸術館でコンサートを開けたら良いね」と、こ

のコンサート開催を夢見ていました。

彼女は大学卒業後、イタリアのローマ・サンタ・チェチーリア高等音楽院に進み、本場の音楽を吸収し帰国。彼女の帰国後、久々の再会から今回のリサイタルの計画が徐々に進んだわけですが、打ち合わせではかつての仲良しの友達から、お互い尊重し合える“音楽の仲間”のような関係にもなれ、時の流れと成長を感じながら、そんな二人でいま表現できる最高のプログラミングを練っていききました。

本公演は、晴れた日のパリの昼下がり散歩しているかのような、音楽さと小洒落た曲調で人気の高い、ピエルネ作曲〈カンツォネッタ〉で幕を開けます。他にもドイツ・ロマン派音楽の大傑作、R.シューマン

の〈3つのロマンス〉や、吉松隆の〈鳥の形をした4つの小品〉、ピアノ・ソロではポーランドの超有名作曲家ショパンの作品など、様々な国の様々な趣の曲をお届けします。

最後には、イタリアの大作作曲家ヴェルディが作曲しました〈椿姫〉をモチーフにした幻想曲を演奏致します。歌の国イタリア。その土地から生み出された感情溢れる旋律に、クラリネットの機能性を生かした超人芸も聴くことの出来る、演奏会最後にふさわしい名曲です。本場イタリア帰りの鬼沢さんと二人でつくり上げる今回の演奏を、たくさんのお客様に聴きにきて頂けましたら幸いです。

世界各国の音楽を旅するようなコンサートを、是非聴きにいらしてください！
太田友香

10.4 日at 14:00 小川瞳 ピアノ・リサイタル



このたび大変貴重な機会に恵まれましたこと、深く感謝しております。今回は、特にピアノの魅力を存分に感じられる作曲家、ショパンとリストを演奏させていただきます。

ピアノの詩人とも呼ばれるショパンは、わずか39年の生涯の間に数多くの名曲を遺しました。その多くをピアノ作品が占め、ピアノでしか

表現できない音楽を追求しました。ポーランドの英雄をうたった詩に基づいたとされる〈バラード 第1番〉、ショパンならではの甘美な旋律が有名な〈ノクターン 第2番、第20番〉、激しい怒りや絶望を嘲笑的な皮肉で音楽にした〈スケルツォ 第1番〉は、いずれも20歳前後に作られた作品で、ショパンの感情が強くあらわれています。〈スケルツォ 第1番〉の絶望とは、ポーランドが帝政ロシアの圧政下にあったために起こるものでもあり、音楽によって祖国を励まそうとする思いをも感じられる曲が〈ポロネーズ 第6番“英雄”〉となります。

ピアノの魔術師とも呼ばれるリストは、超絶技巧を駆使して、さまざまな楽曲をピアノ曲に編曲しまし

た。〈愛の夢 第3番〉は抒情詩「愛し得る限り愛せ」にもとづく歌曲から、有名な〈ラ・カンパネラ〉も含まれる〈パガニーニ大練習曲〉は、パガニーニの〈24のカプリッチョ〉や〈ヴァイオリン協奏曲〉から着想を得たものです。そして後年、リストは世俗社会を捨て、教会に身をささげ、〈伝説〉など宗教的な作品を作曲しました。

ショパンもリストもそれぞれの方法でピアノの魅力を引き出し、当時の人々にも200年近くたった今の人々にも愛される音楽をつくりあげたのです。水戸芸術館という素晴らしい空間の中で、数々の名曲と共に、みなさまと心豊かなひとときを過ごせたら、と思います。どうぞよろしく願いいたします。
小川 瞳

10.31 土 at 15:00

佐藤篤 ピアノ・リサイタル

茨城大学退任記念コンサート（その2）～教育と研究の連鎖～に寄せて



私事で恐縮ですが、この春に40年間在籍しました茨城大学を定年退職するにあたり、2月11日に石橋メモリアルホールにて嘗ての教え子と東京藝術大学附属高校、および学部時代の同窓生の協力を得まして同名のコンサートを開催して終わりにするつもりでございました。しかしその後、聴衆の方々から教え子のソロ

はあっても先生のソロが無いではないかとのお叱りを受け、その2を止むなく水戸芸術館を会場にしてリサイタルをという結果になりました。リサイタルのたびごとに「これが最後だろう」と思いながらいつの間にか水戸で39回目の公演となります。長い間私の演奏活動を支えてくださった方には本当に感謝の念が堪えません。

ところでこのタイミングでプログラムの一部変更についてお断りさせていただきます。チラシに掲載しましたショパンの作品28の前奏曲に変えて、シューベルトの最後のピアノ・ソナタになります変口長調 遺作（D960）を演奏いたします。

話が変わりまして、往年の名ピアニストのアルトゥール・ルービン

シュタインのあるリサイタルのプログラムに、「私はその会場に何人聴衆が居ようとも、ステージに立ってお辞儀をして、偶然に目の合った聴衆の中で、心を魅せられたその人のためだけに演奏します」という意味のことが書かれていたのを思い出します。他の人はどうでも良いらしいです。しかも「その人」は毎回違うのだそうです。

ここから何を私は学ぶかと申しますと、演奏家にとってそのコンサートに何人聴衆が集まったか否かではなく、その会場に心底自分の演奏を聴きたくて臨席している聴衆を感じることのできる瞬間が最高の幸せだと云うことでありましょう。

佐藤 篤

水戸まちなかフェスティバル スペシャル・ライブ

10.25（日）梅津和時／街角クレズマー with ノーラ

入場無料

ストリート・パフォーマンス 14:10 Start @泉町一丁目交差点出発
国道50号・泉町～南町

ステージ・パフォーマンス 14:50 Start @中央ステージ（南町自由広場前）
（雨天時は、16:30より水戸芸術館エントランスホールにてライブを開催。）

出演：梅津和時（サクソフォン、クラリネット）、多田葉子（サクソフォン）、
Alan Patton（アコーディオン）、岩原智（チューバ）、
夏秋文尚（ドラムス、パーカッション）、ノーラ（ベリーダンサー）

主催：水戸まちなかフェスティバル実行委員会



水戸市街地のメイン・ストリートを歩行者天国にして、2012年以来、毎年秋に開催している“秋のストリート文化祭”とも言える「水戸まちなかフェスティバル」。例年、グルメ、フリーマーケット、ワークショップ、ボランティア活動、ステージ演奏、ワンコイン商店街など様々な種類のイベントが実施されています。

今年の同フェスティバルでは、水戸芸術館企画のコンサートを開催することになりました。出演は、日本のフリースタイルの草分けの一人として70年代から活動し、忌野清志郎・RCサクセションのサクセス奏者としても有名な梅津和時！今回のフェスティバルのために、梅津さんは、特別バンドを編成してくれました。東欧系ユダヤ起源の音楽であるクレズマーをベースとする梅津和時率いる「こまっちゃクレズマ」の選抜メンバーに加え、アコーディオン奏者で大道芸や舞台でも活躍する Alan Patton をリーダーとするカツラマズルカとの混合編成で、哀愁を帯びた曲から思わず一緒に踊りたくなるダンス曲など多彩な演奏が繰り広げられます。さらに、本場トルコの国際フェスティバルに毎年招聘されているベリーダンサーのノーラが共演します。音楽と踊りのコラボレーションによる、ストリート練り歩き&ステージ・パフォーマンスをお楽しみください！！《中村》

2015.7.20

ちょっとお昼にクラシック 室住素子のオルガン・ファンタジー

「ちょっとお昼にクラシック」公演に、オルガストの室住素子さんが出演。室住さんは、音楽部門主任学芸員として1997年まで在職。その後オルガニストとして、ソロはもとより、数多くのオーケストラに招かれて演奏活動を行っている。今回の公演では、バッハの〈トッカータとフーガ〉をはじめ、〈タイスの瞑想曲〉、レーガーやメンデルスゾーン作品など、オルガンならではの美しい音色から体を揺さぶる大音響まで、オルガンの魅力を一気に味わうことのできるプログラムが用意された。アンコールはJ.S. バッハ〈小フーガト短調〉BWV578。《中村》アンケートから■ミサにきたような、神聖な気持ちになれる素敵な時間でした。ライトに当たって、シャボン玉のような色に輝いているパイプオルガンにうっとりしながら演奏を聴き、室住さんの和やかなトークに癒されました。(日立市の方) ■室住さんが主任学芸員の時から、演奏を聞いてみたいと思っていました。東日本大震災後の演奏を聞いて、心がときめき、ますます、もっと聞きたいと強く思うようになりました。心が洗われるような曲が流れ、時には激しく、時には優しく、心の中に響きました。(水戸市：H.S. さん)

2015.8.11

フィリップ・トンドゥル オーボエ・リサイタル

水戸室内管弦楽団(MCO)のオーボエ奏者としておなじみのフィリップ・トンドゥルが、日本での初リサイタルを水戸芸術館で開いた。信頼するピアニスト、加藤洋之との共演で、シューマン〈アダージョとアレグロ〉、プーランク〈オーボエ・ソナタ〉、パスクリ〈ドニゼッティの歌劇《ラ・ファヴォリータ》の主題による協奏曲〉などを演奏。また、強いこだわりを持ってプログラムに入れたケ克蘭(トンドゥルと同郷、アルザス出身の作曲家)では、オーボエ・ダモーレの独奏を披露。学生も多く詰めかけた会場は熱狂的に盛り上がった。アンコール曲は、ドラティ〈セミとアリ〉、シューマン〈幻想小曲集 作品73〉第1楽章、同第3楽章、ドラティ〈子守唄〉。《関根》アンケートから■オーボエのリサイタルは初めて聴きました。レパートリーの広さと技巧の卓越に感心しました。MCOでの今後の演奏も楽しみにしています。(水戸市：Y.K. さん) ■オーボエ！ピアノ！おふたりのかけあいがよかったです。オーボエ・ダモーレ独奏、涙が出ました。祈りのような…。また聴きたいです！(水戸市の方) ■オーボエと思えぬほどのまろやかな演奏でした。特にppのロングトーンの響きは最高！オーボエであんな音が出せるんですね。(水戸市の方)

方) ■全部もう一度聴きたくなる曲目でした。ケ克蘭も心にしみました。とても素晴らしいプログラムだし、演奏でした。また何年後かに来てほしいと思いました。(水戸市の方)

2015.8.15

あなたに、わたしに、世界に Peace “パイプオルガン・プロムナード・コンサート”

太平洋戦争終結から70年目、風化しつつある「戦争」と「水戸空襲」の記憶を若い世代に伝えるため、水戸市平和記念館、水戸市立博物館、水戸芸術館の3館が連携して開催した「び〜すプロジェクト」。8月15日にはエントランスホールで、平和作文コンクールで優秀な成績を収めた2人の小中学生の発表とパイプオルガンの演奏をお聴きいただいた(水戸市民協働部文化交流課との共同制作)。オルガン演奏は、福本茉莉さん。J.S. バッハ：〈パッサカリア ハ短調〉BWV582などを演奏した。平和作文を朗読したのは、正路和也さん(浜田小5年)と菅本柚希さん(第一中1年)。正路さんは、祖父の水戸空襲の体験を聞いて「今のような生活を送ることが夢のような時代があった」と語った。菅本さんは「平和は私たちが作るもの」というテーマで、戦争のない社会を築くためには何が必要かを考察した。《中村》

2015.8.23

パイプオルガン体験ツアー プロムナード・コンサート夏休みスペシャル

水戸芸術館の夏休みこども企画「こども・こらば・らば」。音楽関連では「パイプオルガン体験ツアー」を開催しました。講師は、幼児のためのオルガン見学会でも親しみやすいお人柄で人気のオルガニスト、浅井美紀さん。参加者はパイプオルガンを体験したほか、ピアノやチェンバロなど他の鍵盤楽器の特徴も学びました。パイプオルガンでは、音色の多彩さや鍵盤が複数あることを初めて知り、目を輝かせていた子供たちの姿が印象的でした。午後には、浅井美紀さんと西岡崇さんによる「パイプオルガン・プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル」を開催。壮大な音色が魅力の独奏をはじめ、久石譲〈Summer〉やジョブリン〈ジ・エンターテイナー〉では、息の合ったお二人ならではの楽しい連弾をお贈りしました！《高巣》アンケートから■とてもひきたかったパイプオルガンが実さいにひけて、とてもうれしかった。(水戸市：K.E. さん) ■パイプオルガンの音はものすごくきれいだったので来年もやってほしいと思います。(水戸市：R.S. さん) ■子供が体験する事により、私も色々とする事ができてとても感動しました！(水戸市：F.S. さん)

最近の公演から



1-2：ちょっとお昼にクラシック 室住素子のオルガンファンタジー
3-4：フィリップ・トンドゥル オーボエ・リサイタル
5：あなたに、わたしに、世界に Peace “パイプオルガン・プロムナード・コンサート”
6：パイプオルガン体験ツアー

チケット・インフォメーション

【9月26日(土) 発売分】

■クリスマス・プレゼント・コンサート 2015

12/23(水・祝) 17:00 開演

料金【全席指定】一般 ¥3,500 / ユース (25歳以下) ¥1,000

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり (20席以上) △…残席わずか (20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

- ◎森亮子 オルガン・リサイタル……………9/28(月) 自由席○
- ◎太田友香 クラリネット・リサイタル……………10/3(土) 自由席○
- ◎小川瞳 ピアノ・リサイタル……………10/4(日) 自由席○
- ◎茨城の名手・名歌手たち 第25回(司会:池辺晋一郎)
……………10/12(月・祝) 自由席○
- ◎小曾根真 プレミアム・ジャズ・ライブ
……………10/18(日) 中央×、左右・裏○
- ◎佐藤篤 ピアノ・リサイタル……………10/31(土) 自由席○
- ◎市毛恵子 ピアノトリオコンサート……………11/1(日) 自由席○
- ◎水戸室内管弦楽団 第94回定期演奏会(指揮:広上淳一)
……………11/20(金) 中央△、左右・裏○
……………11/21(土) 中央×、左右・裏○
- ◎アルモニア Rosa 第3回コンサート……………11/29(日) 自由席○
- ◎中村真由美&中村佳代 ピアノ・デュオ・リサイタル
……………12/13(日) 自由席○

※9/2(水) 現在の状況です。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な10月のスケジュール

コンサートホール ATM

- 太田友香 クラリネット・リサイタル
10/3(土) 17:00 開演
料金【全席自由】一般 ¥2,000 (当日 ¥2,500) /
高校生以下 ¥1,000 (当日 ¥1,500)
- 小川瞳 ピアノ・リサイタル
10/4(日) 14:00 開演
料金【全席自由】一般 ¥2,000 / 高校生以下 ¥1,000
- 茨城の名手・名歌手たち 第25回(司会:池辺晋一郎)
10/12(月・祝) 18:00 開演
料金【全席自由】¥1,500
- 小曾根真 プレミアム・ジャズ・ライブ
10/18(日) 17:00 開演
料金【全席指定】A席 ¥4,000 / B席 ¥3,000 /
ユース (25歳以下) ¥1,500
- 佐藤篤 ピアノ・リサイタル
10/31(土) 15:00 開演
料金【全席自由】一般 ¥3,000 / 大学院生以下 ¥2,500

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート

10/11(日) 田宮亮、24(土) 野田優子

各日 12:00 ~ / 13:30 ~ (各回 30分程度) 入場無料

ACM 劇場

■伝統芸能のススメ【浪曲】国本武春の世界 3

10/17(土) 15:00 開演

料金【全席指定】S席 ¥3,500 / A席 ¥3,000 / B席 ¥2,500 /
U-25 ¥1,500

■ACM ファミリーシアター ルドルフとイッパイアッテナ

原作:齊藤 洋(講談社) / 脚本:高橋知伽江

作曲:片野真吾 / 演出:山下晃彦 / 振付: KALAMA WAIOLI

出演:塩谷 亮、大内真智、小林祐介、澤田考司、木村隆之

10/31(土) 13:00 開演、

11/1(日)、3(火)、7(土)、8(日) 各日 11:00 開演

料金【全席指定】大人 ¥2,000 / こども (小学6年生以下) ¥800

現代美術ギャラリー

■カフェ・イン・水戸 R

出品作家:アレグザンドラ・ダン、大塚千野、佐々木愛、志村信裕、

日比野克彦、宮永愛子、目【め】、柳家花緑、山下麻衣+小林直人

8/1(土) ~ 10/18(日) 9:30 ~ 18:00 ※入場は 17:30 まで

【休館日】月曜日 ※ただし 9/21・10/12(月・祝) は開館、

10/13(火) は休館

【入場料】一般 ¥800 / 前売り・団体 (20名以上) ¥600

茨城の主な10月の演奏会

■佐川文庫 TEL / 029(309)5020

・小菅優 ピアノ・リサイタル 10/25(日) 18:00 開演

■茨城県立県民文化センター(大ホール) TEL / 029(241)1166

・プラハ国立歌劇場「椿姫」10/14(水) 18:30 開演

■ギター文化馆 TEL / 0299(46)2457

・村治奏一 ギター・リサイタル 10/18(日) 15:00 開演

■小美玉市四季文化館(みの〜れ) TEL / 0299(48)4466

・光と風のステージ CUE vol.31 「白石光隆〜 piano recital 〜」
10/17(土) 19:00 開演

■水戸まちなかフェスティバル TEL / 029(227)8118

・梅津和時 / 街角クレズマー with ノーラ スペシャル・ライブ

10/25(日) ストリート 14:10 開演、ステージ 14:50 開演

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間: 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

懐かしい音楽で当時を思い出したりするように、匂いも記憶と強く結びついてるらしい。前に飼っていたハムスターの匂いがするとしたら、食べた後の枝豆の殻でした。が、それから何度かハムスターの夢をみます。(り)

高校時代の友人達と浴衣で鎌倉散策。あの猛暑が嘘の様に秋の空気になり、外を歩くには最適だったが、散策と銘打って大部分が休憩(笑)思う存分笑って食べて、結局いつもと変わらないけれど、それもまたいい思い出(稲)

親バカって言いますけど、バカにもなりますよ。もう息子にメロメロです。笑いかければ笑い返してくれるし、アー、ウーの声で疑似会話をしたり、手を握って遊んだり、一緒にお風呂に入ったり……(書き出すと止まらない篠)

ソニーのプロデューサーとエンジニアの方にハイレゾ(DSD)のことをうかがい、実際に音を聴かせてもらった。いい音!私はSACDはスルーでこれですね。一方、LPの混濁した透明感(?)もまた捨て難いかと…。(て)

朝6時、那珂湊港に禪姿の男が大勢集まる。お浜入りの後、「大漁!大漁!」と叫びながら神輿を担いで練り歩く。家々の前で盛大に水をかけられる彼ら。見ている私までやられた!これがみなと八朔祭り。ああ港町の底力。(樹)

日本のロックの金字塔RCサクセション。不朽の名作〈スローバラード〉の間奏で庄巻のサクソ・ソロを吹いてきた梅津和時氏が、10月の水戸まちなかフェスに登場。ストリート&ステージの2部構成。ご期待ください!!〈中〉

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」

2015年10月発行 第201号

編集発行: 水戸芸術館音楽部門

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130

E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp

URL <http://arttowermito.or.jp/>

編集: 水戸芸術館音楽部門(五十音順) / 石井亮子

稲田枝里子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃

デザイン: 藤澤絢子

印刷所: 山三印刷株式会社